

報道関係者 各位

令和4年3月16日

【照会先】

医政局医事課試験免許室

試験専門官 戸部 美起 (内線4129)

国家試験係長 安達 亘 (内線2573)

(代表電話) 03 (5253) 1111

第116回医師国家試験の合格発表

令和4年2月5日(土)及び6日(日)に東京都他11か所において実施した第116回医師国家試験の合格者を発表しました。今回の医師国家試験の合格者数等は次のとおりです。

記

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	9,473人	9,232人	8,774人	95.0%
全体	10,353人	10,061人	9,222人	91.7%

第116回医師国家試験の合格基準

第116回医師国家試験の合格基準は、

- ①必修問題は、一般問題を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、
総得点が、158点以上／197点
但し、必修問題の一部を採点から除外された受験者にあつては、
必修問題の得点について総点数の80%以上とする。
- ②必修問題を除いた一般問題及び臨床実地問題については、
各々1問1点とし、
総得点が、214点以上／297点
- ③禁忌肢問題選択数は、3問以下

とする。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 34 問

34 出生当日の新生児。在胎 40 週、体重 3,020 g、Apgar スコア 8 点(1分)、9 点(5分)で出生。助産師が外性器の特徴に気づき医師に報告した。外性器の外観写真(別冊No. 8)を別に示す。鼠径部に腫瘤を触れない。

両親への説明として適切なのはどれか。

- a 「外性器が未成熟ですぐには性別を確認できない状態です」
- b 「約 1 年の成長をみながら性別を確定していきます」
- c 「これから確認をしますがおそらく女兒です」
- d 「染色体検査を行えば性別を確定できます」
- e 「半陰陽といわれている状態です」



(採点上の取り扱い)

採点対象から除外する。

(理 由)

問題として適切であるが、受験者レベルでは難しすぎるため。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 71 問

71 5歳の女児。3日前からの高熱を主訴に母親とともに来院した。咽頭痛と食欲低下を認めるが、咳嗽や鼻汁は認めない。体温39.6℃。脈拍120/分、整。呼吸数28/分。SpO₂100%(room air)。活気良好。顔色良好。眼球結膜に軽度の発赤を認める。咽頭の発赤を認め、口蓋扁桃に白苔の付着を認める。両側の頸部に径1.5cmのリンパ節を4個ずつ触知する。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

可能性が高い疾患はどれか。3つ選べ。

- a 川崎病
- b 溶連菌感染症
- c EBウイルス感染症
- d アデノウイルス感染症
- e パルボウイルス B19 感染症

(採点上の取り扱い)

4通りの解答を正解として採点する。

(理由)

設問が不明確で複数の選択肢が正解と考えられるため。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

B 問題 第 6 問

6 治療後の経過に関して主治医以外に相談を希望する場合、助言や情報提供を行う施設はどれか。

- a 保健所
- b 福祉事務所
- c 市町村保健センター
- d 医療安全支援センター
- e 地域包括支援センター

(採点上の取り扱い)

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。

(理由)

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

B 問題 第 43 問

次の文を読み、42、43の問いに答えよ。

32歳の男性。左前腕を受傷し救急車で搬入された。

現病歴 : 飲酒した状態で入浴し、浴槽から出た際にふらついてガラス戸に倒れ込み、ガラス片で左前腕屈側に受傷した。物音に気付いた家人が上腕部をタオルできつく縛って止血し、救急隊を要請した。

既往歴 : 小児喘息の既往がある。

生活歴 : 喫煙は20本/日を12年間。飲酒はビール1,000 mL/日。

家族歴 : 父親が糖尿病。

現 症 : 酩酊状態だが会話は可能である。身長172 cm、体重67 kg。体温37.2℃。心拍数84/分、整。血圧120/68 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 98 % (room air)。搬入時、上腕はタオルで駆血された状態で、創部からの出血は止まっていた。受傷から80分経過していた。眼瞼結膜に異常は認めない。

43 血液をふき取った後の創部の写真(別冊No. 4)を別に示す。

神経断裂を疑う所見はどれか。

- a 創部の強い疼痛
- b 指先の知覚脱出
- c 腕橈骨筋反射の低下
- d 手関節自動伸展が不可能
- e 損傷部位より末梢の浮腫

別 冊

No. 4

(採点上の取り扱い)

採点対象から除外する。

(理 由)

選択肢に誤りがあり正解が得られないため。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 36 問

36 65歳の女性。多発関節痛を主訴に来院した。5か月前に自宅近くの医療機関で関節リウマチの診断を受けた。B型およびC型肝炎ウイルス検査、結核菌特異的全血インターフェロン γ 遊離測定法(IGRA)は陰性で、メトトレキサートとプレドニゾロンによる治療が開始されたが、症状が改善しないため紹介受診となった。多発関節炎を認め、生物学的製剤による治療の適応と考えられた。併存疾患はない。輸血歴、結核の家族歴や接触歴もない。末梢血白血球数、リンパ球数、血清IgG、胸部エックス線検査に異常を認めない。

この患者で生物学的製剤による治療開始前に追加すべき検査はどれか。

- a 抗EBNA抗体
- b β -D-グルカン
- c 抗アスペルギルス抗体
- d 抗水痘・帯状疱疹ウイルス抗体
- e 血中サイトメガロウイルス抗原

(採点上の取扱い)

採点対象から除外する。

(理由)

問題として適切であるが、受験者レベルでは難しすぎるため。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 64 問

64 24歳の女性。持続する発熱を主訴に来院した。2か月前に37℃台後半の発熱が出現した。その他に症状はなかったが、発熱が持続するため受診した。体温37.8℃。脈拍92/分、整。血圧110/72 mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜に異常を認めない。右頸部に動脈の走行に一致した圧痛と血管雑音を聴取する。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。表在リンパ節を触知しない。血液所見：赤血球数392万、Hb 9.8 g/dL、Ht 30%、白血球14,300、血小板42万。血液生化学所見：尿素窒素13 mg/dL、クレアチニン0.5 mg/dL。CRP 8.0 mg/dL。

この病態を評価するうえで**適切でない**のはどれか。

- a 造影CT
- b 動脈生検
- c 造影MRI
- d FDG-PET
- e 頸動脈超音波検査

(採点上の取り扱い)

採点対象から除外する。

(理由)

問題として適切であるが、受験者レベルでは難しすぎるため。

第116回医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

E 問題 第 16 問

16 患者満足度を調査対象項目とするのはどれか。

- a 患者調査
- b 受療行動調査
- c 病院機能評価
- d 医療事故調査制度
- e 産科医療補償制度

(採点上の取り扱い)

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。

(理由)

問題として適切であるが、受験者レベルでは難しすぎるため。

医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第116回	令和 4年 2月 5 ~ 6日	10,061	9,222	91.7
第115回	令和 3年 2月 6 ~ 7日	9,910	9,058	91.4
第114回	令和 2年 2月 8 ~ 9日	10,140	9,341	92.1
第113回	平成31年 2月 9 ~10日	10,146	9,029	89.0
第112回	平成30年 2月 10 ~11日	10,010	9,024	90.1
第111回	平成29年 2月 11 ~13日	9,618	8,533	88.7
第110回	平成28年 2月 6 ~ 8日	9,434	8,630	91.5
第109回	平成27年 2月 7 ~ 9日	9,057	8,258	91.2
第108回	平成26年 2月 8 ~ 10日	8,632	7,820	90.6
第107回	平成25年 2月 9 ~ 11日	8,569	7,696	89.8

医師国家試験 男女別合格者数等の推移

回数	受験者数(人) 男女比(%) 合格者数(人) 男女比(%)	総数	男女別合格者数等		男女別合格率(%)	
			男性	女性	男性	女性
第116回 (令和4年)	10,061 6,732 (66.9) 3,329 (33.1) 9,222 6,112 (66.3) 3,110 (33.7)	10,061	6,732 (66.9)	3,329 (33.1)	90.8	93.4
第115回 (令和3年)	9,910 6,656 (67.2) 3,254 (32.8) 9,058 6,019 (66.4) 3,039 (33.6)	9,910	6,656 (67.2)	3,254 (32.8)	90.4	93.4
第114回 (令和2年)	10,140 6,806 (67.1) 3,334 (32.9) 9,341 6,206 (66.4) 3,135 (33.6)	10,140	6,806 (67.1)	3,334 (32.9)	91.2	94.0
第113回 (平成31年)	10,146 6,843 (67.4) 3,303 (32.6) 9,029 6,029 (66.8) 3,000 (33.2)	10,146	6,843 (67.4)	3,303 (32.6)	88.1	90.8
第112回 (平成30年)	10,010 6,685 (66.8) 3,325 (33.2) 9,024 5,958 (66.0) 3,066 (34.0)	10,010	6,685 (66.8)	3,325 (33.2)	89.1	92.2
第111回 (平成29年)	9,618 6,368 (66.2) 3,250 (33.8) 8,533 5,593 (65.5) 2,940 (34.5)	9,618	6,368 (66.2)	3,250 (33.8)	87.8	90.5

第116回医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次	受験可能回数	受験者数(人)	構成比(%)		合格者数(人)	合格率(%)
			受験者数(人)	合格者数(人)		
新卒 令和3年4月～ 令和4年3月	1回	9,232	91.8	8,774	95.0	
既卒	令和2年4月～ 令和3年3月	501	5.0	354	70.7	
	平成31年4月～ 令和2年3月	116	1.2	54	46.6	
	平成30年4月～ 平成31年3月	54	0.5	18	33.3	
	平成29年4月～ 平成30年3月	33	0.3	5	15.2	
	平成28年4月～ 平成29年3月	20	0.2	3	15.0	
	平成27年4月～ 平成28年3月	13	0.1	4	30.8	
	平成26年4月～ 平成27年3月	6	0.1	1	16.7	
	平成25年4月～ 平成26年3月	14	0.1	3	21.4	
	平成25年3月以前	10回以上	72	0.7	6	8.3
	計		829	8.2	448	54.0
総計		10,061	100.0	9,222	91.7	